

岩手県遠野市土淵町 農村RMO事業取り組み

土淵町農村活性化計画

でんでらパラダイス構想

高齢者の経験と知恵を集結し、多世代が協力して安心と笑顔で暮らせるまち土淵

土淵町農村活性化協議会 事務局 菊池新一
(事務局：認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク)

岩手県遠野市土淵町農村RMO事業 でんでらパラダイス構想とは？

- 柳田國男の『遠野物語』に登場する「デンデラ野」いわゆる「姥捨て山」。遠野のそれは他の地域のものとはイメージは違いますが、土淵町には今でもその跡が人里近くにあります。
- 遠野市には市民の手作りの舞台「遠野物語ファンタジー」があり、50年ほど続いています。その中で土淵町が舞台となった「でんでらぱらだいす」が演じられ好評を得ました。あらすじは、「デンデラ野」で暮らすお年寄りたちが「昔取った杵柄」、知恵や技を駆使し協力して素晴らしい桃源郷をつくったという舞台です。さらに集落や家族が困っているのをみかねて、人知れず里におりて手伝い、助けたというストーリーには観客も拍手喝采、大感動の舞台となりました。
- このビジョンを「でんでらパラダイス」としたのは、若者も高齢者も自ら持てる知恵や、技を駆使し、みんなが協力して土淵町を「パラダイス」つまり桃源郷にしようとする思いからです。



でんでらパラダイス構想を作るまで

土淵町の方々と意見を交わした令和4年度

【土淵町農村活性化計画「でんでらパラダイス構想」をつくるまで】

- ・協議会の推薦で広く土淵町の人達が参加
- ・協議会メンバーのみでなく、出来るだけ多くの人で
ワーキンググループを結成
- ・米通自治会は7世帯全部が参加で独自の計画づくりを実施
- ・計画に参加した方々は事業意欲に溢れる皆さん



プロジェクトの全体像 & 推進体制

農用地保全

売れる農作物栽培・販売

- ・遊休農地管理・活用
- ・高級メロンづくり
- ・伝統野菜有効活用
- ・販路体制づくり

でんでらパラダイスセンター

空き校舎（旧土淵中学校）を食・観光・生活の拠点に！

『遠野物語』の聖地に！

土淵ゴールデンルート活性化

- ・域内販売・体験拠点の活性化及び連携
- ・農泊事業の活性化
- ・地域資源調査及び人材育成

生活支援・活性化

- ・市民農園整備
- ・移送サービスや買い物支援拡充
- ・住民の居場所づくり
- ・小集落での生活支援・活性化
- ・環境整備の支援拡充

地域資源活用

生活支援



総合活性化拠点「でんでらパラダイスセンター」

～空き校舎を食・観光・生活の拠点に！～

課題

- ・旧土淵中学校が活用できない
- ・空き家・遊休地域が増えている
- ・伝統技術の継承が出来ていない
- ・困りごとへの支援が届いてない
- ・居場所が減ってきている
- ・移動手段が限られている
- ・若者が参加出来る場が少ない

長所

- ・比較的生活はしやすい
- ・魅力ある手技芸の職人がいる
- ・挑戦してみようという人材がいる
- ・もてなしができる人材がいる



【プロジェクト概要】

空き校舎は、この構想のポイントである農用地保全、地域資源活用、生活支援の複合的な取り組みの拠点として、地域に開かれた活用方法を実現していく。また、高齢者や若者、子ども等の住民の居場所・活躍できる場所づくりを関係団体と連携して、支援策を実施する。



でんでらパラダイスセンター

空き校舎の利活用を関係機関や地域の人材と協働し、レストラン活用（ワンデーシェフ）、空き教室活用（手技芸や料理等の講習会、なりわいづくり、継承活動）を行う拠点とする。



生活支援の拡充

- ・移送サービスの実現
- ・多世代の居場所づくり
- ・移動販売車による買い物支援



空き教室やレストランの活用

- ・「ワンデーシェフ」方式の運営
- ・手技芸の講習や伝承、販売
- ・郷土料理の伝承の場づくり
- ・多世代の居場所となる活用
- ・多目的な利用の検討



市民農園整備

- ・空き校舎の隣接の農地を貸出す
- ・農泊等に滞在し交流を図る
- ・農地は利用者と住民が協働で管理
- ・住民と交流を図る農園として活用

総合活性化拠点

農用地保全「売れる農作物栽培・販売」

課題

- ・ 増える遊休農地
- ・ 災害や鳥獣の被害が増加
- ・ 農作業が大変になってきた
- ・ 売れる農産物が中々できない

長所

- ・ 農用地の整備が進んでいる
- ・ 日本有数のホップの産地
- ・ 伝統野菜等栽培品目が抱負



【プロジェクト概要】

遊休農地活用のため関係機関や個人、団体と連携し、新規作物や高付加価値作物の栽培を実現させ、組織化や販売拠点の強化、販路確保を行い、継続的な取り組みにしていく。



遊休農地管理・活用

- ・ そば・大豆・小麦等の栽培
- ・ 湿田改善や農地調査等
- ・ 鳥獣害対策の実証



高級メロンづくり・販売

- ・ 栽培方法の検討・実証
- ・ 農家等のグループ化
- ・ 販路の確保



高付加価値化と継続的な販売

- ・ 集出荷販売の仕組みづくり
- ・ 販路確保及び継続的な活動
- ・ イベントや販売拠点の強化



伝統野菜有効活用

- ・ 関係者と連携した伝統野菜の有効活用
- ・ 特産品の開発や販路拡大

農用地活用

地域資源活用 「『遠野物語』の聖地に！」

～土淵ゴールデンルート活性化～

課題

- ・観光資源を活かしきれていない
- ・人材が活かされていない

長所

- ・魅力ある食の文化がある
- ・伝統行事や芸能が残っている
- ・遠野らしい暮らしぶりや景観
- ・観光地として魅力が多い
- ・魅力的で交流好きな人が多い



【プロジェクト概要】

地域内の観光資源、生活・文化資源、『遠野物語』、農的な暮らし、食や人の魅力を地域資源とした土淵のゴールデンルートとしたストーリー性ある観光を実現する。



販売・体験拠点活性化

- ・かっぱの茶屋でのイベント等
- ・観光施設との連携した企画
- ・食の魅力化
- ・情報発信



農泊事業の活性化

- ・農泊の受け入れ拡充と支援
- ・土淵らしいツアーの造成・販売
- ・空き家や空き地の活用
- ・体験メニュー造成・販売



地域資源調査や人材育成

- ・地域や食の資源調査
- ・研修会の実施
- ・手芸や食の伝承者の育成
- ・事業を担う人材の確保・育成

地域資源活用

生活支援「小集落の生活支援・活性化モデル『米通集落』」

～メイドイン米通 命が守られ 育まれる平和なムラ～

課題

- ・農用地をどうするか？
- ・交通手段が不足している
- ・商店が近くにない
- ・新しいことをする余裕がない

長所

- ・豊かな里山の恵がある
- ・交流が好きな人が多い集落

【プロジェクト概要】

小集落活性を図るモデル地区を「米通集落」にして、「集落の人生設計」「山は大きな資源」「平和が一番」「飲んで騒いで交流大好き集落」をキーワードに事業推進していく。



農泊による小集落活性化

- ・農泊実践者の確保・育成
- ・受け入れの体制づくり
- ・情報発信



スモールビジネス化

- ・体験メニューやツアー造成
- ・山の恵みの商品開発
- ・山林を活用した事業の推進

生活支援

令和5年度実証事業状況 及び 今後について



遊休農地乾地化対策状況



メロン栽培研修状況



収穫したメロン



ワンディシェフ レストラン



市民農園



鳥獣害対策状況



令和5、6年度は各プロジェクトの実証を行い
令和7年度以降の本格的な実施を目指す